第４４回山形市農政審議会議事録

１　開催日時　令和８年８月２６日（水）１５時００分～１７時００分

２　場所　山形市役所　１１階　大会議室

３　出席者

（１）審議会委員

藤科 智海委員、鈴木 雅史委員、笹原　史恵委員、鈴木 淳子委員、星野 みち子委員、二ノ戸 長作委員、山田 彰一委員、鑓水 信也委員、鈴木 淳委員、大山 敏弘委員、栗原 秀行委員、横山 佳子委員、小松　武委員、川村　貴裕委員、中野　信吾委員、髙橋 徳郎委員

（２）幹事

農林部長、健康医療部長、環境部長、福祉推進部長、まちづくり政策部長、農業委員会事務局長、企画調整課長、健康増進課長、鳥獣被害対策課長、障がい福祉課長、まちづくり政策課長、森林整備課長、地方卸売市場管理事務所長、農政課長

（３）事務局

農政課長補佐、農政企画係長、営農改善係長、農産係長、就農・経営支援係長、６次産業推進係長、農政企画係員（３名）、農村整備課計画指導係長、農業委員会事務局農地利用促進係長、（株）地域計画建築研究所（１名）

（４）オブザーバー

村山総合支庁産業経済部農業技術普及課

４　傍聴者　１名

５　議事

議第１号　第７次山形市農業振興基本計画　基本計画（骨子案）について

（１）第７次山形市農業振興基本計画（骨子案）　（資料１）

（２）第７次山形市農業振興基本計画素案（概要版）（資料２）

（３）計画策定の経過及び今後のスケジュールについて（資料３）

６　内容

（１）開会

（２）議事録署名委員の指名
　　１号委員　鑓水　信也委員
　　２号委員　栗原　秀行委員
（３）議事　議第１号　第７次山形市農業振興基本計画　基本計画（骨子案）について
１）第７次山形市農業振興基本計画（骨子案）
２）第７次山形市農業振興基本計画素案（概要版）

議　　長	１）第７次山形市農業振興基本計画　基本計画（骨子案）第７次山形市農業振興基本計画素案（概要版）について、事務局より説明願います。
事　務　局	（議第１号「第７次山形市農業振興基本計画（骨子案）」及び「２）第７次山形市農業振興基本計画素案（概要版）」説明）
議　　長	ただ今の説明に対して、５つの「目指す姿」の順にまずは「つなぐ」に貢献する施策１「多様な担い手の育成・確保」，２「地域農業の持続化」について皆様からご意見・ご質問等ございませんか。
委　　員	今後、農家人口が増えることは恐らくないと思いますので、今後の減少をできるだけゆるやかに食い止めていくというところが現実的な方針かと思っています。若手農家の方ですと承継にかかる部分で親世代から息子世代への世代交代の部分でうまくいっているところもあると思いますが、親世代がまだまだ現役で頑張っており、まだまだ強い状況かなと思ってます。自分も間もなく４０になりますが、まだまだ若手と言われ続けているんですけれど、３０代、４０代の方々にもう少し自分自身の経営を見つめる機会を増やしていけたらなと考えています。親世代の方々にも自身の経営を下の世代に伝えていく機会というのを作っていただければと思っておりますし、また今後、後継者がいない地域の農地の連携について記載にあるとおり、しっかり進めていただければなと考えています。
議　　長	親子承継でも結構問題が起こる時、多々ありますよね。それをどのような形で整理するのか、そういうところは、非常に、重要なことだと思いますし。あとは、若手の農業者にも、親からだけじゃなくて、色々な形で、いろんなこと

	を、教えてもらえるような、親の場合だと、一度説明したら、あとは、やれ、みたいな。そういうような話も私も聞いたりもしますので、周りからのフォローみたいなのが色々できるような体制ができるといいですよね。他、この施策1、施策2あたりでいかがでしょうか。
委　　員	先ほど委員からも事業継承の話が出ましたが、うちは比較的スムーズに農事組合法人から株式会社になるときに親世代からすんなり継承できた方ではあるんですが、なかなか継承できないのが個人事業でやっている方だと思います。なので法人化を進めていただきたい。法人化しなくてもったいないと思う人が正直かなりいる。下の世代に法人化を勧めているが、どうやったらいい？とかメリットは何？という話になるのですが、法人化することで福利厚生とかしっかりしているというので呼び込んでいただいてアドバイスするような体制を作っていただければなと思います。あとは、大規模区画化なかなか進められない。前、自分もちょっと何かで喋ったかもしれないが、地主の意向が強いところがある。同じ地主の田んぼを借りて連担にして大規模化するのはだいぶ進めているんですが、地主が違う田んぼを２枚続けて大きくしたい３反分３反分を６反分にしたい場合、地主がそれぞれ違うと「そこうちの田んぼだ」という方が多い。若い地主だと割と簡単にいいですよと言ってくれるが、お年を召した方だと先祖代々の土地だという意識がありなかなか進まない。また、地域計画でもなかなか進めてないようですけど、やはり１回借りると手放しづらく肥料とかを入れてせっかく何年もかけて作ったのに条件の悪いところとなかなか交換はできないようなところもあるので、そのようなところも踏まえて進めていっていただければいいんじゃないかなと思います。
委　　員	今までの委員の意見をもっともだと思って聞いていたところです。特に大規模区画化は、すぐにできるというものではないが、山形市で今度新しく道路１１２号線が通ることもあり土地の形が変わったり農作業に行くまでの道のりが変わったりしてしまうと思いますのでそういったことも長い目で見てもらって５年１０年よりもっと先の将来のことを見据えながら自分がいつまでもできるわけではないということも考えていかなくてはならない。 農業人口が減る一方で２０２５年時点での数値にもありましたが、これ以上減らないようにという話だと思いま

す。今も新規就農の方が色々いらっしゃって来ていただいていますが、一番最初の農地の部分で田んぼの法人に入る方は法人さんなり、指導してもらえると思うが施設園芸を新たに始める際は、場所を確保しづらいことがあると思う。田んぼなら貸すが上にハウスを建てるとなると地主さんから了承してもらえず条件が良くても使えないとうこともあります。もちろん高齢化で辞めていく施設園芸の方もいると思います。山形市の方で樹園地のマッチングを始めたと思うが、それと同じように施設園芸ハウスがあるようなところに関しても数年先や今すぐ貸したい、数年先辞める予定だといったことを把握できていれば新規就農者やもう少し近隣にあれば生産規模を増やしたいという生産者もうまく規模を拡大していけると思う。
もうひとつ新規就農者や県外から来られる方もいるかと思うが、一番間違いないのは親元で就農だと思う。農地もあるし近所や地元の応援もある。本当の新規就農の方も、もちろんなんですが、親元で始める方に今以上に手厚く一番最初だけでなく経営者になるまでの間等もう少し支援していただければと思います。

議　　長　施策1、施策2に関して、他、何かございますでしょうか。事務局の方側から、施策1、施策2に関して色々ご意見いただきましたけど、何かご回答なり、もしあれば、お答えをいただければ。

事　務　局　我々事務局の方でも、世代交代についても、いま、認定農業者等の経営改善計画をお渡しいただく中でも、家族経営協定などを結んで、うまく事業承継できるような形で進めていけるような形で、今いろいろご相談にも乗らせていただいているところではございますが、いただいた声なんかも踏まえて、どのような取り組みが良いかというところも含めて色々検討していきたいというふうに思っております。また、30代とかの、若い農家の方についても、今後色々、本格的に経営を担っていくという方に対しても、例えば青年農業士会の方でも色々、先進視察等も行っておりますので、そういった先進事例等も見ながら、経営の参考にしていただくように今後も、そういったところでも取り組んでいければと思っております。また、大区画化についても、私どもの方も地主さんの意向が非常に強いということで、こちらの方も認識はさせていただいております。やはり大区画化を進めていく上でも、当然長い期間かけて、

色々皆様の方にもご理解をいただきながら、進めていかなくてはいけないと考えておりますので、そういった大区画化をすることによってのメリットなども十分にお伝えしながら、こちらのほうも進めていきたいと考えております。あと、親元就農の人にも支援を厚くということで、当然その新規、新たに入られる方についても当然支援は、今まで通りさせていただきますが、親元就農の方についても、今後、お父様とか親の世代の方から事業承継して、そのまま引き継いで行かれるということで、重要な、農業者の担い手だということでも認識しておりますので、何らかの形で対応、施策化できるかというのも、検討はしていきたいと思っておりますので、ぜひ、皆様の方からのご意見とかいただければと思います。ありがとうございます。

議　　長　次の施策の方で、またご意見をいただければと思いますけども。続いて稼ぐに貢献する施策としての、施策 3 と施策 4 あたりでご意見をいただければと思います。農業の競争力強化、高収益型農業の推進、このあたりでですね、少し皆さんからのご意見、あるいは、ご質問がいただければと思いますけども。いかがでしょうか。

委　　員　山形市の方々には、わが社の市場からの、食品を食べていただきまして、この場をお借りして感謝申し上げたいと思います。山形市の公設市場は、前回も申し上げました通り、昭和 50 年に開場をいたしました。その時は、まだ、国からの認定ということで、山形市中央卸売市場ということで、スタートをしたわけであります。現状は山形市公設市場となっております。国からの認定の市場の時には、非常に色んな条例とかがありまして、やはり色んな規則とか、時間帯とか、そういうものがあったわけですけども、30 年目あたりからは非常にこの物流の変化が非常に大きく出てきまして、民間の市場と同じような、そういった規則とか、そういうものを解除いただきまして、スムーズな、この時代に合ったような物流の流れを作りましょうということで、市の方と我々からの申し出とか色んなこう、各会議からの申し出とか、中卸さんとか、そういうものがありまして、時代にあった物流の流れで、今、その後、経過をして、今年で 51 年ですか。そういった経過の中で、いま、現在、時代に合った販売の仕組みと言いますか、前は、直接取引、転送等の規制があって悪いとか、中卸さんにお任せするとか、そういうことがあったわけですけども、今

の時代に合わないということで、我々は、そうですね、中卸というものが 6 社あったわけですけども、うちの会社の子会社を設立いたしまして、ベジフル山形という会社を作って、山形市の農産物をしっかり全国に展開していきましょうということで、今、そういった形でいろんな果物から野菜まで、特に、近年山形市の農産物の魅力商品というものが大きく出てきておりまして、全国にいま展開しているところであります。非常にこう、一番大事なことは、我々、市場の販売の中で、生産者がいかに、しっかり収入を得て、継続した形で、農業をやっていくかというのが我々の 1 つの大きな使命であります。ですから、いま現在は、非常に物価が高い、経費が、段ボールにしても、農薬にしても、非常に高い経費の中で、農産物を生産者の方々から作っていただいているわけであります。ですから、その負荷の部分をいかにして、我々仕事の営業の中で、生産者が満足していただけるような価格帯を作るということが、我々の市場の一番大事な役目ではないかなと思っているところです。小売店が多かった時には、小売店の店主が店の前で、ちょっと色が悪いけども、中身についてはこれ美味しいよとか、ちょっと変形してますけども、このブドウはしっかりと美味しいですから、ということで、一つのアクションを出して売ってくれたわけではあります。小売店が、50 年前からすれば非常にもう、極端に、各市町村には、我々のグループにしても 2、3 軒は小売店があったわけです。いまは、本当になくなりました。ですから、その部分を我々は出たものは、しっかりとこう、消費者にいかに納得して、仕入れてもらい、食べてもらうためには、我々の市場と、そして、子会社の中卸という立ち上げた会社でもって、いま、いろんな場所に展開をしてるところであります。そういった、スーパーとか、ギフト商材の会社とか、そういったものは非常に大きく出てきているわけですけども、我々の市場も、売った買った、作ってもらって、ただ売るでなくて、この商品はこういった形で、山形の農産物で、しっかり味も良く、中身も、大層な長持ちするような、そういった、品質の良いものだということを常々、頭において量販店とか、スーパーに今までとは違った形での商談を、今継続しているところであります。ですから、昔は、競りだけで売ってたわけです、「さあいくらー」ということで。競りは競りで、その時の商品力の中での相場の転換がいち早くわかるわけですけども、それよりもまた、相手に、このワンシーズンの中で平均の単価をいくらに持っていく

か、そういったきめ細やかな、販売力を付けて行かないと、なかなか生産者の方々が納得しないのではないかなと思っているところです。全国にやはり、いろんなチャンネルを持って、色んな業者との取引も、やっぱり大きく、先を見ながらやることが我々の市場としての大きな役目ではないかなと思っているところでありますので、安心して地元市場に、商品力を高めるためにも、そして、生産者の安定した収入でもって、安心して地元の市場から出して良かったと言われるような、市場体系、地元としての市場の体系を作り上げることが今後なおいっそう、出していかなければ駄目ではないかなと思っているところでありますので、色んな形での販売力と言いますか、大きく、色んな業者との繋がり、異業種との販売の繋がりとか、色々1つだけの量販店だけで取り組むのではなくて、色んな業種との取り組みをいま、やってる段階であります。ですから、今後は、なおいっそう一番大事なことでありました、一番申し上げました通り、安定した相場作りっていうものは頭において、今後なおいっそう、そういった営業展開を我々はしていくつもりでありますので、今後とも1つよろしくお願いしたいと思います。

委　　員　前回の審議会の時にも申し上げたんですが、先般の農水省の委員で行って研修会をしてきたっていうところで、そこの説明の中で、全国的に、稲作農家の後継者っていうのが増えてるという話でした。一方で、果樹農家はなかなか、後継者が育たないということで、全国的な農業の後継者の推移だということで、稲作の後継者が増えてるっていうところについては、いわゆる規模拡大がしやすい。いわゆる生産費を下げることができることによって、収益を得られるというところで、山形市の方でも、平成28年で25名の、10ha以上の形態、そして令和5年で46人に増えてるっていうようなところは、そういったところがあるのかなと思ってます。で昨年ですね、いわゆる米価が、米がないというところと、米が高いということで、米離れをしてるんじゃないかというところで、そして、今、まもなく刈り取り時期に入るという中で、いわゆる概算金が、早いところだと、1万6000円とか1万7000円でできている。一方で、農水省で、今年度の生産費が2万535円でしたっけ？出してるということで、単純に、生産費が2万535円であれば、それ以下だったら赤字経営になるというようなことなんですけど、2万535円っていうのが、いわゆる小規模農家

から大規模農家の平均だということで、大規模農家について生産費はもっとずっと低いんだというところで、まだまだ、大規模化すれば、ある程度、米価が下がっても経営的には成り立っていくのかなというふうな見通しがあるかと思ってます。先ほどありましたけども、規模拡大するには、やっぱり、圃場整備のところで、地主さんからの了解がなかなか取れないというようなところで、その辺は、行政も関わって入っていただければいいのかなというところと、あとは、農業委員会がやっている、地域計画の中でこの地域、あるいはこのロットについては、この法人が、あるいはこの団体が、というようなところで、ある程度規模拡大をする法人を配置していけば、経営的には成り立っていけるのかなと思ってます。ただ一方で、いわゆる地域の水路であったりの維持管理を１法人だけではなかなかできないと。ある程度やっぱり地域の農家がいないと、その水路の管理等ができないんだなというようなところで、やはり、規模が小さい農家も稲作経営が成り立つような施策を国の方で考えてもらいたいっていうのが、農家側からの考えなのかなと思ってます。

議　　長　それでは、次にいきますけども、今度「守る」の方に貢献する施策としての、5「農業生産を支える環境整備とリスク対策の推進」6「中山間地域の農業・暮らしの維持」このあたりでですね、ご意見あればいただきたいと思いますけども、いかがでしょうか。

委　　員　委員から話ありましたけども、一緒に東京に行って、農水省の官僚の方と色々協議をしてきたということで、農業の問題が色々ある中で行ってきたわけですけども、あと要請ということで、副大臣に要請書提出させていただきました。その中に中山間地域についての対策はどうなんだということで、よろしくお願いしたいという内容になりますけども、今やっぱり中山間地域直接支払いということで、資金を出してるんだから中山間地域の人頑張れよということですけども、そこを担う方々、事務的に担う方々も含めてなんですが、今回の案には事務的なところを協力するようなことがありましたけども、実際やる方がいるのかなというのが一番の問題で、地域ぐるみでという話もありますけども、やっぱり地域ぐるみで今中山間地域をやっているわけですが、その枠が広がっていかない。やってる地域はやってるんだけども、取組を担う人が減り、継続が難しく

なっているということがありますので、もうちょっと根本的なところも考えなきゃいけないのかな。なんてことで思ってるところです。あとこの中に有害鳥獣被害もありまして、ここ２．３日、日本ジカが出たということで話があります。３年まえほどですか、高瀬地区で、シカが捕獲されたという事案があったり、本沢地区の方でもシカ捕獲になったという事案があるということで、県の方も含めてですけども、シカは本当に増えるのが早いので、対策を早めにやってくれないかなということで要請をしてきたところでございます。その辺についても色々どういう対策があるのかなということもちょっとお聞かせいただければありがたいかなということでよろしくお願い申し上げます。

幹　　事　日頃から大変お世話になっております。今年度から有害鳥獣対策が、環境部の方に移管になりまして、鳥獣被害対策課ということで新設させていただいて対応をとっているところでございます。委員の方からありました通り、昨今、日本ジカが山形市内でも目撃されて、それも市街地に出るようになってきております。農作物被害もあるということだそうです。さまざまな有害鳥獣が確認されていますが、有害鳥獣対策実施計画の方で現状把握しまして計画を立てまして、自治体の方で罠を仕掛けるなりして、的確な捕獲を進めながら対応をとっていきたいという風に考えております。何か、発見等ございましたら市役所の方までご連絡いただければ、それで、すぐ対応させていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

委　　員　なんと言っていいか分からないんですが、ちょっと前、女性の農業者が少ないっていうので参画を進めるという話があったんですけど、本当に女性って旦那さんの後をついて行くような農家の主体が多くなってた状態なので、今からはやっぱりもっと女性が一生懸命できるような、そんな農業になればいいなと思っております。それにはやっぱり、もっと女性が勉強できるような場を作って欲しいなと思います。あと、もう１つ、鳥獣対策の話ですが、もっと、市でもその地区に行って色んな説明をしてくだされば、もっとこう、広がるのかなと思うんだけど、話は聞くんだけど、それ以上に進まないのは、もっとこう、積極的に話をしてくれたら、良いのではないかなっていう感じを受けました。

事　務　局	ご意見今いただいた中で、まずは稲作の方の後継者が、増えいるということで、拡大しやすいってことで良い点ではないかということで、お話を受け賜わった件につきましては、やはり今の現状、10ha あたりの経営者などの増えているというところもあって、こちらは市の方でも頑張って、取り組みをさせていただいておりまして、農地の集積・集約化、また地域計画の取り組みなどで、色々取り組んできた結果ではないかとも思っているところではございますが、まだまだ、農業の方の省力化、あとは、実際に効率化を図っていくような取り組みにも、今後引き続き行っていきたいと思っておりますので、こちらのほう、農業 DX の取り組みなども進めながら、引き続き取り組んでいきたいと思っております。あとは農地の方の、農地、農道、水路等、維持をしていくことに関しましても、こちらは、大規模農家だけでは当然維持できないと我々の方も認識はしているところでございます。こちらのほうも踏まえまして、数年前に、小規模農家支援ということで、我々の方も、地域の担い手として、中小規模の農業者も、地域の重要な担い手であるというような形で支援するような取り組みも引き続き実施しておりますので、そういった中からも、例えば、今後、新たに規模を大きくして認定農業者を目指す方も、そういった方もいらっしゃると思いますので、そういった方についても、バックアップするような支援は、引き続き行っていきたいと思っております。あと、中山間地域対策につきましても、今お話しありました通り、毎年やる方が少なくなっているということで、当初の中山間地域の対策についても、私の記憶していることでは、20 組織以上はあったんじゃないかなと思いますが、現状だいぶ少なくなっているということで、やはり事務の煩雑さとか、そういったことも当然関わっているところでございますので、そういったところで、中山間地域の交付金をいただきながら、今後の農地の維持管理活動もしていただいていると思いますので、そういったところについても、引き続き市の方としても、どういった手伝いができるのかということで、検討はしていきたいと思っております。あとは、女性農業者の方の勉強会ということで、研修する場というか、そういったところもあればというお話がありましたが、以前、農政課でも女性農業者の研修会ということでやっていたこともありましたが、今そういった機会がなかなかなくなったということもありますので、我々の方で、新春農業講演会とかそういったところでも、例え

ば女性が成功した事例なども含めまして、勉強の場なんかも含めて考えていき、引き続き皆様の方からもご参加いただいて、我々の方もそういった場を提供していきたいと考えているところでございます。以上です。

議　　長　次に「知る・食べる」に貢献する施策７と施策８のところで少しご意見をいただければと思います。施策７「農産物の安全・品質確保」のところと、施策８の「食育・地産地消の推進」のところです。皆さんの方からいかがでしょうか。

委　　員　あの、ちょっと感じたことなんですけども、消費者としましては、環境に配慮した農業の有機農業、オーガニックビレッジ宣言のことなんですけども、本当にこれはお願いするしかないですし、消費者たちは本当に感心が高まっていますけれども、安全で安心なものを食べたいという気持ちはいっぱいなんですけども、言うのは簡単なんですが、きっと大変な思いをなさっているんだろうなと思いまして、応援するために言ってみました。よろしくお願いします。

委　　員　私も飲食店を経営しておりますので、この「知る・食べる」というところの、地産地消の推進、文化の継承というところが書かれてございますが、こちらで直売所、直売所情報や小売店、飲食店との連携強化というところがございます。ぜひ、私たちも地産地消、当店も山形市の方の地産地消のお店ということで認定をいただいて営業しております。ぜひ積極的に使いたいのですが、何かイベントがあります時に購入しようと思いますと、なかなか手に入らない状況っていうのが現状でございます。なので、農家の方から先ほどお声がありましたが、もっともっと小売りの方がたくさんいて、お作りになった人から直接「曲がっていても美味しいんだ」なんて言うものであっても、美味しければぜひお客様に食べていただきたい思いがありますので、市の方でこちらの方の施策をもって、もう少し具体的に、そして積極的に私たちが欲しいと思う時に購入できるような窓口、また農家の方との交流などを作れるような機会を作っていただきますと、ぜひ生産者の方のお話を聞きながらお料理を作ってそれを食べてくださる方にお届けするということもぜひやってみたいと思いますので、どうかそういう機会をお作りいただければと思います。

委	員	地産地消なんですけれども、実は先日ですね、山消連の方で食育地産地消の講座を設けたんですね。そうしましたら、17 組の親子の方がお見えになったんですよ。それで、本当に地産地消として食材を選ぶ時に、本当にどこまでが地産地消なんだか、食べるだけの料理ではなくて、私たちの山消連としてはエシカル消費、倫理的な消費、その中でも特化して、地産地消って銘打ったんですね。そこで子供さんたちに、そのことをお話ししましたら、どこで作られてるんだろうかとか、この食材どこから来るんだろうとか、山形の食材を大切にしたいとかっていう 17 組で全員で 72 人も、集まったんですね。これは小さな一歩ですけれども、本当にこの地産地消っていうことを、全面に出していただければ良いなと思いますし、隣の方がおっしゃった通り、地産地消に、大変でしょうけれども、地元のものがどこにあって、安定供給があればなおいいなと思いますので、農家の方大変でしょうけれども、よろしくお願いいたします。
委	員	もう、皆さん前の方が言ってくださったんですが、やはり私たちも地産地消で、特にセルリーとかね、いろんな料理しようかと思ったりしているんですが、なかなか手に入らないんですよね。テレビなんか見ると、都会でこう販売しましたって、もうそういうの見てから言ってもあれなので、あと他に、じゃあ山形のサファイアナスとかそういうの使いましょうなんて感じで言うんですけど、なかなか手に入らないので、それを使いましょうって言ってるけれど、やっぱりでも山形の他の人のでも大丈夫っていうのもあるんですけども、こう、なんて言うのか、どこで手に入るのかっていうのが、なかなか分からない、分かりづらい。本当に山形のものとか買いたいと思うんですけども、なかなかその季節の時に手に入らないことがあって、たまたま小売店、スーパーあたりで「あっ、山形セルリーあった」と、「あ、見つけた」と思うんだけど、それを本当にいつの時期に出るかっていうのもちょっと分からなくって、そういうのをちょっと、周知というかテレビでもないけども、なんかそういうのが分かる何かがあったらいいのかなとちょっと思っています。 以上です。
議	長	それでは少し先に進めさせていただきますけども、続いて「触れる・楽しむ」に貢献する施策の 9 について、ご意見

	お伺いしたいと思います。
委　　員	この度、農業振興の計画の中で、農福連携という言葉が盛り込まれたということは非常に好ましいことで、ありがたいと思って感謝しております。ぜひ農業サイドでも農福連携ということについて、これからも一生懸命取り組んでいただきたいという具合に思っております。ありがとうございます。それで、農福連携をやっている事業者としてですね、感じていることをお話しいたしますと、農家側が農作業の一部を、要は福側に担っていただきたいという需要は、これから益々増えてくるんだろうという具合に思っております。で、それをきっちりと解決していくためには、福側の足腰の強い経営、安定した経営、継続的にやっていける体制などがどうしても必要だなという具合に思っております。それで、9 の 3 にいろいろ記載ありますけれども、これから調査する部分が必要でしょう。しかし、今、現在進行中の農福連携がより足腰の強いものになっていくためには、福祉側が継続的に安定して、農家側の農作業の一部を担っていけるように、農家側が必要とする作業に応じた技術の習得、福側の技術の習得。並びに指導員の配置、福側にその農作業の指導員の配置、というようなものが図られるよう取り組む、というような文言が、書き方はお任せいたしますけれども、施策の中に盛り込んでいただけたら非常にありがたいという具合に思っております。 それから、先ほど地産地消で必要なんだけど、どこからどう購入していったら調達すればいいか分からないというお話が何人かからお話ありましたけれども、どのくらいの量が、どの種類の量が、いつどのくらい必要かということが分からないと、それを取り揃えるシステムが今ないので、その窓口をどこかで一本化していただければ、農家側は提供する部分というのはいくらでもあると思います。 だから、需要量っていうんですか、需要量の種類と値段と量なんですが、これをいつまででどのように取り揃えるか、ということがきちんと明らかになれば、これはなんとか農家側としては対応できるんじゃないかなという具合に思っております。以上です。
委　　員	本計画の基本理念と方向性、大変素晴らしいものと考えております。 特に重点テーマの「農・観連携」、「農・商・工連携」と位置付けることはですね、今後の山形の農業にとって、非常に大事なことだと考えております。 山形市

の方ですね、果樹をはじめ、農産物、郷土料理、温泉、自然、食と観光を結びつける地域資源がたくさんございます。 これらを農業体験、収穫体験、観光農園、地産地消の食として、我々も旅行商品などをですね、常々作りたいなというふうに考えている次第でございます。 ただ、昨今インバウンドで山形の方にも、いっぱい外国人の方が来ておりますが、団体ツアーで見かけるのは、全国展開しているチェーン店とか、山形の地産地消ではないところに、だいぶ来て食べていく人たちが多かろうと。 やはり、私も仕事上、いろんな日本のところかに行くとですね、「山形って食べものうまいずね」なんていうふうに、非常に言われることが多くて、フルーツも非常に有名なので、できるだけですね、山形に来てもらったら、やはり地産地消のものを食べていただいて、またリピートして来ていただく。そして、交流人口が向上してですね、どんどんファンをつなげていくような形になっていけば、まあ非常にいいのかな、なんていうふうにも考えている次第でございます。あと、やはり我々旅行業で今痛感してるところはですね、観光地よりもどちらかというと「産直に寄ってくれ」という声が多くて、私も営業がてら東根辺りを見ていても、どこの産直もそこそこ県外ナンバーでいっぱいになってるなというふうに非常に感じます。やっぱり買うだけではなくて、食べて「美味しいな」と言ったものを買っていって、また山形に来るという、非常に簡単な仕組みではございますけれども、私自身、山形で蕎麦喰うぞと言った時に、なかなか情報不足で観光客はもっと分かんないんじゃないのかなって、今、公共交通機関が大都会に比べれば少なくなっている部分もあるので、できるだけそういった宣伝が山形っていうのはまだまだなってないなっていうのと、あとはインバウンドに対する他国の言語ですか、そういったものはなかなかまだまだ表示ができてないというところもあるので、ぜひこれから、そういった山形のファン作りに繋げていけるように、我々旅行業者もですね、いろんなお手伝いをしていって、山形の、最終的に今回の目標である、農業を支えていく方々に、貢献できるように繋げていきたいなというふうに考えている次第でございます。以上でございます。

議　　長　最後に全体を通してご意見、ご質問を伺いたいと思います。 いかがでしょうか。

委　　員	全体を通して掲げてある施策とか目標というのは、これも実現したら、それぞれ素晴らしいなと思うようなことなんだと思います。で、問題なのはやっぱり「どう実現するのか」「どう実行するのか」ということなんだと思いますね。目標、施策を掲げるというのは、それは大事なことなのですが、それをどう実現していくか、その辺を強く認識していただければありがたいなという風に思っております。例えばなんですけども、「守る」のところでですね、気候変動に向けた対策が書かれてましたけども、気候変動、この先やはり従来よりもさらに変動が激しくなって、作物の影響というのが少し予想つかない状態で現れてくるかもしれない。そういう時に、基礎自治体である山形市さんが、そういう変動に対して、どう即応してどう実行力を出していくかというのは、非常に大事なことになってくるんじゃないかと思いますので、その辺も重視していただければなという風に思います。 あと「触れる・楽しむ」「知る・食べる」のあたりで、市民、消費者との関わりのこといろいろ描かれておりますが、それに関連してちょっと思ったんですが、基本計画の素案の中で、山形市の農業の強み、逆に弱みというのが出てました。例えば、強みです。強みの中に 8 番「農に関心がある市民が一定数いる」そういう項目がありました。 逆に弱みの方を見ると、これに対応するのが 6 番かと思います。「市民の農への関わりの薄さ」これちょっと逆のこと言ってんじゃない、これ読み比べると、農に関心がある市民がある程度あっても、それほど多くないと。実は、農への関わりの薄い市民の方が多いのかなという風に読めちゃいますので、そういう消費者をどのようにこの「触れる・楽しむ」「知る・食べる」の中に巻き込んでいくのか、その辺が非常に大事な、重要になってくるのかなと思いますので、その辺もぜひ重視していただければいいのかなと思っております。以上です
委　　員	私の方からは「つなぐ・稼ぐ・守る」について、ちょっとお話しさせていただきたいと思います。 資料の５ページの方に、未来予測の推計で、基幹農業従事者数が、2020 年に 2,651 人、2035 年に半分以下の 1,282 人、さらに 2050 年で半分以下の 623 人ということで、かなり危機的な数字が出ております。なぜこういう風な数字が出てくるかというと、やはり農業は稼げないというイメージがあるのではないかと思います。実際に稼いでいる方はいらっしゃいます。高収益作物ということで、山形市の方でも果樹等をふ

	くめた園芸作物等で稼いでいる農家さんもいらっしゃいますけれども、やっぱり一番多いのが水田であります。水田の面積が圧倒的面積を占めております。この水田面積をしっかり農地として維持していかなければならない。でないとやっぱり山形の景観も保てないということがありますので、その辺も盛り込んでいかなければならないんじゃないかなと思います。あの稼げないということで今回、米、令和6年産、7年産と非常に高騰したわけですけれども、この中でやはり儲かった時には、前にあの青年部に私言ったんですけれども、「儲かった時には『儲かった』と大きな声で言え」と。やっぱりそう言うことによって、次の後継者が「俺もやる」ということで増えてくるんじゃないかなと思いますので、その辺は声を高らかにしてほしいなと思います。 やっぱり、農業というと非常に労働的にも大変だというイメージがあるかもしれません。そのわりにはやっぱり稼げないというイメージがあると思います。 他国の先進国を見ますと、ブルーカラーがホワイトカラーを賃金で抜いたという報道がありますけれど、やはりそうでなければ日本の社会も成り立っていかないんじゃないかという風に思っております。 昨年の11月に、JAグループの方でオーストラリアの方に研修に行ったんですけれども、その時に見てみますと、学生のバイト料が時給3,500円。これ物価が高いんで日本とは比べられないんですけれども、びっくりしたのは夜間工事をやっていた女の子が旗振りをやってたんです。その時給が8,000円を超えているということで、そのくらい出さないとそんな仕事誰もしませんよということで、やっぱりそうであるべきだなという気がしました。そんな中で、米の方は先ほど委員からありました通り非常に生産性のある価格になっておりますけれども、この辺は消費者の皆さんから理解をいただいて、国産の米が食べられるような形で頑張っていかなければと思っているところであります。 農協の方も販売一貫化して頑張りますし、あとは市場、生産物の方もよろしくお願いしたいと思います。ちょっと、まとまりませんけれども、私から以上です。よろしくお願いします。
委　　員	最後になりますけれども、農協としましては農業者第一の団体でありまして、稼ぐ力を農業者につけてもらうのが我々の仕事であります。様々なご意見を頂戴しながら、応援していただいてるんだなという思いで聞いておりました。まず地産地消の問題については、我々直売所3店舗を

運営しておりまして、その中で野菜ソムリエを配置しまして、皆さんに地産地消の大切さというね、そう言うことをお伝えしているかと思います。また、学校給食を通しながら、地産地消の体制、大切さ、また地元農産物の提供ということで各地区の特産物を提供しているところであります。子供さんがこうやって地域でこんな美味しいものが出来ているんだということを伝えながら、将来大人になった時に山形は大変美味しいものがたくさんあるんだなということを伝えていただくといいなと思って我々も今やっているところであります。 また、山形市の農産物の PR の仕方がちょっと弱いところがありまして、山形市長さんと我々２農協の山形市農協と山形農協の組合長がタイアップしながら、関東・関西を中心に春・秋行っているわけですけれども、こんなに山形の農産物が美味しい、またファンが多いということを実感してきているところであります。このように特に美味しい農産物ができるのも土地改良、また基盤整備がしっかりとできたことによって高収益な農産物ができると私は思っておりますので、その辺も含めて改良区、また我々農業者団体が一体となって、特に行政の皆さん、山形市の皆さんからは事業への関心、また支援をいただきながら我々務めてまいりたいと思っておるわけでございますので、この 10 年後このような形で達成出来ていれば最高だと思います。 農業者が 10 年後、70 代以上が 80%以上になっていなければ、山形市の農業の未来が大変明るいのではないかと思うところであります。以上であります。それから、9 月 6 日に食肉まつり、また農産物フェスタということで山形市の農畜産物の PR も行われるということを聞いておりますので、その辺でも皆さんからたくさんご意見をいただいた中での PR をしていきたいなと思っております。以上です。

委　　員　全体を通してと言いますか、昨年暮れに、いわゆるナショナルジオグラフィックで山形県が、訪れるべき 2026 年、世界の２５の都市に選ばれたと。またジャパンタイムズの方で山形市が認定されたということで、山形市内にも欧米からの、インバウンドが増えていると聞いております。インバウンドの特徴としてですね、団体ではなくて個人で、自分でインターネットで調べて観光に来ているっていうのがインバウンドの特徴だという風に言われてます。その中でもいわゆる体験型の観光と言いますか、ここに行ってこういう体験ができるというその体験型の観光というも

のに対して、最近、いわゆる観光地というより東京・京都以外の地方に行っているというような傾向があるという風に聞いておりますので、ぜひ山形市においても特に中山間地、中山間地の農家で体験農業、あるいは農家レストラン、そして農家民宿なんかを展開すれば面白いのかという風に思ってます。 特に中山間地の集落というのは、どうしても過疎化が進んで高齢化が進んでいるという中で、若い人が結構そのよそから来て農家レストラン、あるいはアイスクリーム、シャーベットみたいなのを出して、インターネットで調べて結構、観光客が来ているという事例もあるようですので、ぜひそういったことも進めて行ってもらいたいなという風なことが一つと。 あとは、食育の部分で、以前に学校給食で米粉を使った米粉パンということで、山形市では年間 10 回ぐらいなのかな、米粉パンを提供しているという風なことで、やはりその食育という部分を考えれば、輸入してきた小麦で作ったパンではなくて、国産あるいは山形市産の米粉で作った米粉パンを買おうと、食べようというような、こう食育に繋がればいいのかなという風に思ってますので、学校給食あたりでもね、ぜひその米粉パンだったり米粉の麺だったりというのも増やしながら、食育に繋げてもらいたいなという風に思います。以上です。

委　　員　すみません。質問なんですけれども、私生産者なんですが消費者の方々のご意見をお聞きしたいんですけども、先ほど資料の中にもありましたオーガニックとか有機野菜の辺の、ニーズとかっていうのは今後も拡大していくのかなっていうのが一つと、やっぱりオーガニックとか有機に求めているものっていうのはどう言ったもの、どういったメリットを求めて、こう消費者の方が求めているのかなっていうのが私勉強不足で、消費者の方々だったり、議長の知見あればちょっとお話伺いたいと思ったんですけど大丈夫ですか。

委　　員　オーガニックに関しましては、本当にまだ未知数ですよね。そして、私たちはやっぱり、こういう物価高の折で、オーガニックを求めている方は本当にどれくらいいるのかっていうのは掴み切れませんけれども、シニア層はやっぱりそんなにたくさんじゃないけれども体にいいものを食べたいっていう、ニーズは一定数はあります。でも若い方はそんなこと言ってられないわけですから、そこは格差

	があると思いますけれども、国の政策としてオーガニックに進んでくれればいいなっていうのを本当に願いですね。これは映画の受け売りなんですけれども、韓国の映画見たんですよ。そしたら学校給食、全部オーガニックで占められてたんですね。それは映像なのでインパクトがあったかもしれませんけれども、これは韓国に負けてるのかしら日本なんてと思ったりして。本当に農家の方々に、ぜひともオーガニックっていう気持ちはないんです、本当に、採算の取れる程度に安全で安心なものを私たちは望みます。そして、選ぶ時にこれがオーガニックだってのがあれば、こちらで選べるのがあればいいなっていうくらいの気持ちです。私たちは食べ支えるっていう気持ちでおりますので本当にこの大変な時期ですね、まず生き伸びて頑張ってくださいということでよろしくお願いいたします。
委　　員	逆に言うと、慣行農業で作ってるものは、オーガニックと比べたら安全ではないっていう認識の方が多いんですかね？
委　　員	それに関しては、本当に一部の人の本当に、極められている方は色々いるでしょう、私たちはオーガニックに関しましては本当にまだまだ勉強不足ですので、どれをもってしてオーガニックっていうか知らないけど、オーガニックって書いてあるものオーガニックだと思う。だからそこは、市場に出回っているオーガニックを信用して買うわけです。だから基準とかっていうのもまだまだ勉強不足ですので逆にですね、ここまではオーガニックでこれ以上は無理だっていうのがあるわけですから、どうぞ逆に、教えてください。お願いいたします。
議　　長	地域の消費者の皆さんは、すぐ近くに農業の現場見てるので、だいたい分かってるというか、どれだけ大変になるかという風なところも分かってるので、大丈夫な面はあると思うんですけども、少しその首都圏の方に流通させるとか、いや海外に対して行っていくんだとかいう風になった時に、オーガニックというふうなところが武器になることもあるみたい、そんなところはあるかもしれないですよね。

３）計画策定の経過及び今後のスケジュールについて

議　　長	３）計画策定の経過及び今後のスケジュールについて、事務局より説明願います。
事　務　局	（議第１号「３）計画策定の経過及び今後のスケジュール」説明）
議　　長	ただ今の説明に対して、ご意見・ご質問等ございませんか。 ―特になし―
議　　長	以上で本日の審議を終了しますので、事務局に返します。 色々ご協力いただきましてありがとうございました。

（４）閉会